

目次

1	法 (Modus) とは何か	1
2	接続法のポイント	1
2.1	命名の由来	1
2.2	「接続法 I 式」と「接続法 II 式」の意味上の相違	1
2.3	復習：直説法現在人称変化と直説法過去人称変化	2
2.4	接続法の形式 (I 式は不定詞語幹が, II 式は過去基本形がベース) と接続法現在人称変化	2
2.5	接続法の時制	2
3	直接話法から間接話法への書き換え練習	3
3.1	接続法 I 式が直説法と衝突する場合は II 式を用いる	3
3.2	時制及び時・空間の処理 (コンテキスト依存)	3
3.3	接続法過去形	3
3.4	懐疑的ニュアンスの接続法 II 式	3
3.5	色々な練習 (上級)	4

1 法 (Modus) とは何か

「法」(方法・方式の意)とは「動詞の変化体系」を意味する。ドイツ語では、**直説法 (Indikativ)**、**接続法 (Konjunktiv)**、**命令法 (Imperativ)** の 3 つがある。

2 接続法のポイント

2.1 命名の由来

「～なる旨・～ということ」といった dass の機能を包含するため (つまり主文に接続できるため) 「接続」法と呼ばれる。しかし、実態は「**非直説法**」であると考えると分かり易い。

2.2 「接続法 I 式」と「接続法 II 式」の意味上の相違

- **接続法 I 式**は客観的事実 (これは「直説法」で表現される) ではないが**事実足り得る可能性がゼロではない事柄**を
- **接続法 II 式**は**事実足り得る可能性がゼロか、または少ない事柄**を

表す。接続法の用法は、次の 4 種類に分けて考えると分かり易い。

1. **間接話法の接続法**=主として接続法 I 式* ← 他人の言 (つまり真偽は分からない) を伝達するから
例文) Er sagte, es sei genug für ihn. 彼は、それは彼にとって十分である、と言った。
2. **要求の接続法**=接続法 I 式 ← 「～であれ!」と願いを託しているので「事実足り得る可能性はゼロではない」と見なせる
例文) Der Mensch sei fromm! 人間というものは敬虔であれ!

* 間接話法においては原則として接続法 I 式を用いるが、直説法と同形になってしまう場合は (接続法であることを明示するため) 接続法 II 式を用いる。また、特に 3 人称単数において、多少懐疑的なニュアンスを加味する場合は、I 式を用い得るにもかかわらず II 式を用いることがある。さらに、メルヒェンや物語など (多少くだけた感じの場合) にも、たとえそこに懐疑的なニュアンスがなくとも、II 式を用いる傾向がある (接続法 I 式は「お堅い」表現形式であると見なされている)。

3. 非現実の接続法 = 接続法 II 式 ← 非現実 = 事実足り得る可能性がゼロか、または少ないから

例文) Ich *täte* es gern, wenn ich nur die Zeit dazu *hätte*. それをする時間さえあれば、喜んでそれをするのに。

4. 外交的接続法 = 接続法 II 式 ← 「非現実」を仮定することによって「丁寧さ」を表現できるため

例文) *Könnten* Sie mir bitte sagen, wie ich zum Rathaus komme? 市役所にはどうやって行くのか、私にどうか仰ってくださいませんか？

2.3 復習：直説法現在人称変化と直説法過去人称変化

以下の例 (表 1) を良く復習すること。

表 1 lernen, fahren の直説法現在人称変化と直説法過去人称変化

	規則動詞 lernen				不規則動詞 fahren			
	直説法現在人称変化		直説法過去人称変化		直説法現在人称変化		直説法過去人称変化	
	Sg.	Pl.	Sg.	Pl.	Sg.	Pl.	Sg.	Pl.
1 人称	ich lerne	wir lernen	ich lernte	wir lernten	ich fahre	wir fahren	ich fuhr	wir fuhren
2 人称	du lernst	ihr lernt	du lernstest	ihr lerntet	du fährst	ihr fahrt	du fuhrst	ihr fuht
	Sie lernen	Sie lernen	Sie lernten	Sie lernten	Sie fahren	Sie fahren	Sie fuhren	Sie fuhren
3 人称	er	sie lernen	er	sie lernten	er	sie fahren	er	sie fuhren
	sie lernt		sie lernte		sie fährt		sie fuhr	
	es		es		es		es	

2.4 接続法の形式 (I 式は不定詞語幹が、II 式は過去基本形がベース) と接続法現在人称変化

以下の例 (表 2) を注意深く学ぶこと。lernen, fahren の不定詞語幹/過去基本形はそれぞれ *lern / lernte, fahr / fuhr* となっている。接続法の変化語尾は純粋に機械的であるが、sein だけは例外 (辞書で確認しておくこと)。また, befehlen のように過去基本形が *befahl* であっても接続法 II 式が *befähle* ではなく *beföhle* となるものも稀にあることに注意。

表 2 接続法 I 式 / II 式の現在人称変化

	規則動詞 (II 式は直説法過去人称変化と全く同じ)				不規則動詞 (II 式ではウムラウト付加)			
	接続法 I 式		接続法 II 式		接続法 I 式		接続法 II 式	
	Sg.	Pl.	Sg.	Pl.	Sg.	Pl.	Sg.	Pl.
1 人称	ich lerne	wir lernen	ich lernte	wir lernten	ich fahre	wir fahren	ich führe	wir führen
2 人称	du lernest	ihr lernet	du lernstest	ihr lerntet	du fahrest	ihr fahret	du führest	ihr führet
	Sie lernen	Sie lernen	Sie lernten	Sie lernten	Sie fahren	Sie fahren	Sie führen	Sie führen
3 人称	er	sie lernen	er	sie lernten	er	sie fahren	er	sie führen
	sie lerne		sie lernte		sie fahre		sie fuhr	
	es		es		es		es	

2.5 接続法の時制

直説法において見られた過去における 3 形式 (過去形・現在完了形・過去完了形) の区別はなく、**接続法過去形** という 1 形式しか存在しないことに注意 (表 3 参照)。

表 3 直説法の時制 vs. 接続法の時制

	直説法	接続法 I 式	接続法 II 式	
現在	Er liebt. Er geht.	Er <i>liebe</i> . Er <i>gehe</i> .	Er <i>liebte</i> . Er <i>ginge</i> .	現在
過去	Er liebte. Er ging.	Er <i>habe</i> geliebt. Er <i>sei</i> gegangen.	Er <i>hätte</i> geliebt. Er <i>wäre</i> gegangen.	過去
現在完了	Er hat geliebt. Er ist gegangen.			
過去完了	Er hatte geliebt. Er war gegangen.			
未来	Er wird lieben. Er wird gehen.	Er <i>werde</i> lieben. Er <i>werde</i> gehen.	Er <i>würde</i> lieben. Er <i>würde</i> gehen.	未来
未来完了	Er wird geliebt haben. Er wird gegangen sein.	Er <i>werde</i> geliebt haben. Er <i>werde</i> gegangen sein.	Er <i>würde</i> geliebt haben. Er <i>würde</i> gegangen sein.	未来完了

3 直接話法から間接話法への書き換え練習

3.1 接続法 I 式が直説法と衝突する場合は II 式を用いる

1. Sie sagen: „Wir haben Zeit.“ 彼等は「私達には時間がある」と言っている。

⇨ Sie sagen, dass sie Zeit *hätten*. (直説法・接続法 I 式とも haben という形になってしまうため II 式に移行) 彼等は、彼等には時間がある、と言っている。

3.2 時制及び時・空間の処理 (コンテキスト依存)

2. Sie sagten: „Wir haben Zeit.“ (主文は過去時制) 彼等は「私達には時間がある」と言っていた。

⇨ Sie sagten, sie *hätten* Zeit. (しかし、英語に見られた「時制の一致」は考慮しなくて良い) 彼らは、彼等には時間がある、と言っていた。

3. Hans behauptete: „Morgen regnet es hier.“ ハンスは「明日、ここでは雨が降る」と主張した。

⇨ Hans behauptete, dass es *dort am nächsten Tag regne*. ハンスは、彼地には翌日雨が降る、と主張した。

3.3 接続法過去形

4. Er sagte: „Ich habe mir gestern ein Buch gekauft.“ 彼は「私は昨日私用に一冊本を買った」と言った。

⇨ Er sagte, dass er sich *am vorigen Tag ein Buch gekauft habe*. 彼は、前日私用に一冊本を買った、と言った。

5. Er sagte: „Ich kaufte mir ein Buch.“ 彼は「私は私用に一冊本を買った」と言った。

⇨ Er sagte, dass er sich ein Buch *gekauft habe*. 彼は、私用に一冊本を買った、と言った。

3.4 懐疑的ニュアンスの接続法 II 式

6. Sie behauptet: „Ich bin unschuldig!“ 彼女は「私は無実である！」と主張している。

⇨ Sie behauptet, dass sie unschuldig *wäre*. (彼女は、自分は無実である、と主張している。[が、私は怪しいと思っている。])

cf. Sie behauptet, dass sie unschuldig *sei*. (彼女は、自分は無実である、と主張している。[そして、私は、彼女の主張内容の真偽について関知しない。])

3.5 色々な練習 (上級)

以下の直接話法から間接話法への書き換えを (どうしてそのようになるのか) 良く考え, 良く学ぶこと。8, 9, 10 番は「副文内に二重不定詞がある場合は, 定動詞は文末ではなく二重不定詞の直前に置かれる」という文法 (教科書では未習) による。

7. Sie sagt: „Zum Muttertag werde ich meiner Mutter ein schickes Kleid schenken.“ 彼女は「母の日に私は母にシックなワンピースをプレゼントするつもりだ」と言っている。

⇒ *Sie sagt, dass sie zum Muttertag ihrer Mutter ein schickes Kleid schenken werde.* 彼女は, 母の日に母親にシックなワンピースをプレゼントするつもりだ, と言っている。

8. Die Stiefmutter sagt: „Ich wollte das Sneewittchen umbringen.“ 継母は「私は白雪姫を殺そうとした」と言っている。

⇒ *Die Stiefmutter sagt, dass sie das Sneewittchen habe umbringen wollen.* 継母は, 彼女は白雪姫を殺そうとした, と言っている。

9. Die Stiefmutter sagt: „Ich wollte das Sneewittchen umbringen lassen.“ 継母は「私は (家来に命じて) 白雪姫を殺させようとした」と言っている。

⇒ *Sie Stiefmutter sagt, dass sie das Sneewittchen habe umbringen lassen wollen.* 継母は, 彼女が (家来に命じて) 白雪姫を殺させようとした, と言っている。

10. In einem Sachbuch heißt es: „Ohne Sauerstoffmaske wird man sich auf dem Mars nicht bewegen können.“ 専門書には次のようにある。「酸素マスクなしでは, 人は火星上で行動できないだろう。」

⇒ *In einem Sachbuch heißt es, dass man sich ohne Sauerstoffmaske auf dem Mars nicht werde bewegen können.* 専門書には, 人は酸素マスクなしでは火星上で行動できないだろう, とある。

11. Ein Verlagsprospekt kündigt an: „Bis zum Jahresende 2050 werden 4 der insgesamt 12 Lieferungen erschienen sein.“ 出版社のパンフレットは「2050 年の年末までには全 12 巻中 4 巻の本が出ているでしょう」と広告している。

⇒ *Ein Verlagsprospekt kündigt an, dass bis zum Jahresende 2050 4 der insgesamt 12 Lieferungen erschienen sein würden.* 出版社のパンフレットは, 2050 年の年末までには全 12 巻中 4 巻の本が出ているでしょう, と広告している。